

第76回日本学校農業クラブ全国大会令和7年度西関東大会

10月21日（火）～23日（木）、第76回日本学校農業クラブ全国大会令和7年度西関東大会が開催されました。本校からは農業鑑定競技会に3年食品システム科の猪口さんと3年緑地デザイン科清水さんが出場し、クラブ員代表者会議に2年食品システム科の稲垣さんが参加しました。

競技会・会議前日

競技会前日の10月21日（火）、早朝6時過ぎにJR鳥取駅を出発し、13時過ぎにJR甲府駅に到着しました。甲府駅では昼食をとった後、農業鑑定競技会出場者チームとクラブ員代表者会議チームに分かれ、それぞれの宿舎に向けて旅立っていきました。

甲府駅にて



空気が澄んでいた甲府駅周辺



クラブ代表者会議（会議会場：山梨県立北杜高等学校）

クラブ員代表者会議当日の10月22日（水）、山梨県立北杜高等学校にてクラブ員代表者会議が開催され、本校の稲垣さんは第2分科会第4会場の会議に参加しました。会議の前には、全国の単位クラブ員の生徒1人1人と自作の名刺を交換し合い、自己紹介をしました。初めに静岡県立田方高等学校の『「園芸福祉」を活用した地域連携の取り組みについて』の発表を聞き、それに対して「良い点」と「改善できる点」については話し合い、まとめ、班ごとに発表を行いました。次に「各単位クラブの農業クラブの取り組みと現状の問題」について話し合い、班ごとに発表をしました。さらに第2分科会の最大のテーマである「クラブ員の興味、関心、交流、連携を高めるため、また、農業クラブを活性化させるにはどのような活動があるか」についての話し合いが行われ、意見を出し合いまとめた後、班ごとに発表が行われました。最後に第2

分科会第4会場の全員で記念撮影を行い、分科会は終了しました。

分科会終了後は、『生命とは何か？から考える農と未来の暮らし』というSDGsをテーマにした講演会もありました。人が住み生活をする事で、自然が破壊され水も空気も汚染されるといわれています。しかし人が住み、水場ができ、食料生産から電気・水・ガスに至るまでもほぼ自給自足で生活を行うことで、環境に優しく健康にも良い生活を実践されている非常に興味深い講演でした。講演や会議はもちろんですが、それ以外にも全校をあげて全国のクラブ員を迎えるための準備も素晴らしかったです。全国大会のポスターが校内の廊下一面に貼られ、それらすべてに「ようこそ！山梨県へ」など、全校生徒1人1人によって手書きの歓迎のメッセージが記入されていました。予定より大幅に終了時間が伸びたにもかかわらず、帰りは全校生徒と職員にて、笑顔で見送りをしていただきました。この日の外気温は10℃と、大変寒い一日となりましたが、生徒職員の熱いおもてなしに心が温くなりました。クラブ員代表者会議に出席し、全国の農業クラブ員と交流を深めることで、貴重な経験ができたのではないかと思います。

クラブ員代表者会議会場入り口にて



発表する稲垣さん



意見を出し合い話し合い



校舎から見る富士山



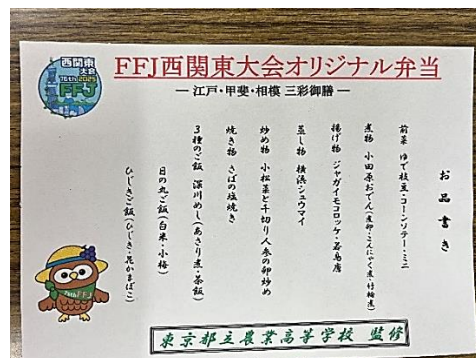
農業鑑定競技会（山梨県立農林高等学校）

同日、山梨県立農林高等学校にて農業鑑定競技会が行われ、分野食品に猪口さん、分野草花に清水さんが出場しました。昼食は、山梨県の食材や郷土料理の入ったお弁当が出ました。さて、競技会の出来映えはいかがでしたでしょうか。結果は明日23日木曜日の6時30分以降に、全国大会ホームページにて掲載される予定です。明日の結果速報が楽しみです。

山梨県の食材と郷土料理の入ったお弁当



お品書き



大会式典（山梨県立県民文化ホール）

10月23日（木）、各競技会場と会議会場に分かれていたクラブ員が山梨県立県民文化ホールに一齐に集結し、大会式典が行われました。この日は農業鑑定競技会の結果速報が出て、清水さんが2年連続優秀賞を獲得することができました。今年の問題は、非常に難易度が高かったようです。清水さんは前年度優秀賞を獲得していたため、今年も獲らなくてはならないというプレッシャーがあったと思います。そのような中で2年連続優秀賞を獲得することができ、しかも鳥取県内の入賞はたった1人という、大変価値ある結果となりました。日々の努力の積み重ねが成果となり形になったのだと思います。おめでとうございます！！

式典会場にて



帰りの汽車の窓から撮影した富士山



今年度も全国大会に出席・出場し、全国レベルの問題に触れ、全国の農業クラブ員と刺激し合える交流を行うことによって、農業クラブ三大目標である社会性、科学性、指導性が高まった3日間だったのではないのでしょうか。この貴重な経験を今後に活かして欲しいと思います。